



# 顧客満足度向上に注力し ファイバードラム製造の 国内シェアトップを維持

## 太陽シールパック株式会社



### Corporate Profile

代表取締役社長 糟谷 雅隆  
 本社 和歌山県和歌山市築港 4-19  
 設立 1955年9月  
 売上高 34億円(2013年8月期)  
 従業員 100人(2013年8月)  
<http://www.taiyosealpack.co.jp/>

産業用包装資材の開発・販売を手がける太陽シールパック株式会社。顧客は化学・医薬メーカーが中心で、主に化学品や医薬品の粉体状原料を国内外へ輸送する際の容器として、同社の製品が使用されている。

「産業用包装資材には、長距離・長時間の輸送に耐えられる高い強度が求められます。製品例としては鉄製ドラム、つまりはドラム缶が挙げられますが、当社の主力製品は紙製のファイバードラムです」と語るのは、糟谷雅隆代表取締役社長だ。ファイバードラムは紙製ながら、約1t以上の荷重に耐えられる強度を持っている。

「ファイバードラムのコストは鉄製ドラムの2分の1以下なので、強度を保ちつつも『軽量かつ安価』という特徴があります。また、鉄製ドラムの容量や寸法には規格があるのに対し、ファイバードラムは顧客が望む容量に応じてカスタマイズしやすいのもメリットです」

同社は在庫を持たないよう完全受注制を敷いている。小

ロット生産に対応するために、ファイバードラムは理にかなっている。

同社は日本におけるファイバードラム製造のパイオニアだ。糟谷社長の祖父が戦後にアメリカからファイバードラムで物資が送られてきたのを見て、製造を開始。以来、現在まで業界のトップシェアを誇っている。

競合他社の追随を許さない背景には、全国的な製造体制を構築したことによる納品の迅速性がある。現在、同社の工場は新潟・神奈川・和歌山・香川・山口の全国に5カ所。これにより、最短で朝に受注した製品を当日夕方に納品できるといふ体制を実現し、顧客満足度を高めている。

「顧客からの要望を直接聞くことで、事業展開のヒントとしています。その代表的なものとして、『Aドラム』があります。『Aドラム』は『使用済み製品の分別処理をもっと簡単にできないか』という顧客からの要望がきっかけになって生まれた製品です」

同製品はファイバードラムの改良版で、補強用に付いていた金具パーツの取り外しを容易にした。従来の強度を保ちつつ、リサイクルの簡便性を兼ね備えているとして、「Aドラム」は新たな主力商品になると同時に、その技術とコンセプトが認められて、2011年度の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞している。

「顧客の要望を実現しようとするので、製品自体の可能性も広がっていくのです」と、糟谷社長は語る。

同社は新規の顧客獲得にも精力的で、そのためにWebサイトを有効活用している。企業サイトをリニューアルすると、新しい顧客が着実に増えた。また、通信販売専用サイト「いれものショップ」を開設したことも同社のPRにつながり、個人客からのファイバードラムの注文が増えているという。

常に顧客満足度の向上に努めてきた同社。今後も顧客ニーズに応えながら、より付加価値の高い製品づくりを行っていくことだろう。



写真左の左が従来のファイバードラムで、右が「Aドラム」。金具を取り外すのが容易になった。ファイバードラムを補強する金具(中)。ファイバードラムの組み立てにおいては社員による手作業が重要である(右)

「これからは産業用包装資材に特化して事業を展開していきます」と語る  
 糟谷雅隆代表取締役社長

